

令和5年度 公立大学法人 公立小松大学の取組みと業務運営の評価



令和6年8月

小松市公立大学法人評価委員会
Komatsu City University Evaluation Committee

contents

はじめに	03
Ⅰ 全体評価	総評 04
Ⅱ 項目別評価	
(1) 教育・研究編	① 教育 05 ② 研究 07 ③ 国際交流 09
(2) 地域貢献編	① 地域貢献 11
(3) 法人経営編	① 業務運営 13 ② 財務 14 ③ 自己点検・評価/広報 15 ④ その他 16
Ⅲ 資料	
(1) 公立小松大学の情報	17 基本理念・教育理念/大学の学部・学科構成/組織図
(2) 評価	19 評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準
(3) 用語解説	21
キャンパスマップ	22

公立小松大学校歌 光より速きわれら

なかにし 礼 作詩
千住 明 作曲

見よ 白山の頂を
若き 飛躍の舞台なり
学びの時を 愉しく修め
いざ羽ばたかん 自由の翼
世界は広し ならばなお
翔びゆけわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

海 永遠の時を打つ
若き 希望も無限なり
果てなき空に ゆるがぬ意志で
描け七色の 調和の虹を
理想は遠し ならばなお
挑めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

この命こそ 奇跡なり
汝 自身を 知りつくせ
高みに上り 高みを越えて
いざ身に浴びん 叡智の景色
真理は深し ならばなお
極めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学



は じ め に

令和6年能登半島地震において犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、一日も早く日常生活が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、3月16日に開業しました北陸新幹線小松駅は、多くの方々に利用され、新たなにぎわいが生まれております。公立小松大学におかれましても、新幹線駅に隣接する大学としての立地を活かし、各分野の交流を促進することで、教育・研究の更なる発展を期待します。

平成30年度に開学した公立小松大学は、令和5年度をもって6年間の第1期中期目標期間を終りました。その間、新型コロナウイルスの感染症の拡大による行動の制限を受けながらも、学生の教育研究活動の継続に努め、地域に優秀な人材を送り出すなど、目標の達成に向けて順調に進められてきました。また、大学院サステナブルシステム科学研究科を開設し、大学院棟や研究実験棟を整備するなど、教育・研究の高度化にも取り組まれております。

令和6年度からは、新たな第2期中期目標期間が始まります。公立小松大学が、これまでの実績を糧に更なる教育研究活動を展開し、地域全体の持続的な成長につながることをご祈念いたします。

小松市公立大学法人評価委員会 委員長

小松市公立大学法人評価委員会 委員

項目	氏名	所属 職名
委員長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	金沢大学 監事
委員	さとう けいいち 佐藤 恵一	金沢工業大学 教授
委員	みなみ ひろまさ 南井 浩昌	北陸エアターミナルビル株式会社 代表取締役社長
委員	あきやま のりこ 秋山 典子	医療法人社団 澄鈴会 理事長
委員	かわみなみ えみ 河南 恵美	河南恵美税理士事務所 代表

※小松市公立大学法人評価委員会条例により設置する市長の附属機関。法人の運営に関し、第三者の視点から評価を行う。

公立小松大学 中央キャンパス



全体
評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

令和5年度の公立大学法人公立小松大学の業務実績は、全体として中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価できる。

開学6年目の令和5年度においても、就職内定率は100%となり、令和3年度から3年連続の達成は大きな成果として評価できる。今後は、各学科・専攻とキャリアサポートセンターが連携した支援を行うことに加えて、卒業生とも連携を図ることで、より充実した学生のキャリア形成と就職活動支援に取り組んでいただきたい。

教育面では、看護師・保健師・臨床工学技士の国家試験合格率が全国平均を大きく上回ったことは評価できる。また、交流協定を締結している海外大学等との交流や地域貢献活動を通して、様々な経験を積み、広い視野・考え方を持つ学生を育成されることを期待する。

研究面では、科学研究費補助金や論文数等、教員の研究実績が全体として目標値を上回ったことは評価できる。一方で、教員用の自己点検・評価シートの活用を継続し、教員自らが自身の活動を見直すとともに全学的に教育の質の向上に取り組んでいくことを期待する。

1月に発生した能登半島地震における安否確認等の対応については、これまでの防災訓練が活かされた面もあるが、組織的にさらに入念な体制づくりを行い、安全対策をはじめ、コロナ禍で整備されたオンラインやオンデマンドによる学修の提供を充実させるなど、引き続き学生の教育機会が確保されるよう取り組んでいただきたい。

項目別評価

項目		評価結果	評価基準
(1) 教育・研究	① 教育	A 順調	S 特筆すべき進行状況
	② 研究	A 順調	A 順調
	③ 国際交流	A 順調	B 概ね順調
(2) 地域貢献	① 地域貢献	A 順調	C 要改善
(3) 法人経営	① 業務運営	A 順調	D 要抜本的改善
	② 財務	A 順調	
	③ 自己点検評価・広報	A 順調	
	④ その他	A 順調	

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 授業評価アンケートに加えて、外部Webアセスメントテストを導入し、学修成果を可視化することで、教育改革・改善に繋がった。
- 地域企業と連携した実習やインターンシップ、海外語学研修を実施し、地域と世界で活躍するグローバル人材の育成を図った。
- 9月4日に文部科学大臣から大学院サステナブルシステム科学研究科博士後期課程の設置認可を受け、入学者選抜試験、関係諸規則の整備、入試広報などを実施した。
- 国家試験対策特別講座の開講や模擬試験等を実施し、国家試験の合格率は、看護師、保健師ともに100%、臨床工学技士は89.6%となり、いずれも全国平均を上回った。
- 各学科・専攻とキャリアサポートセンターが連携して就職活動支援を行い、就職内定率は3年連続で100%を達成した。
- 物価高に対する経済対策として、日本学生支援機構の給付型奨学金支給対象者108名に1万円～2万円の支援金を支給した。
- 学生の課外活動が平常化し、ボランティアサークル、地域活性化サークルなど、大学公認サークル33団体に活動助成を行った。



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 内部質保証に向けた取り組みを種々の角度で行っており評価できる。アンケート結果などに基づき、さらなる学修者本位の授業改善、教育改革等が期待される。
- ◎ 保健医療学部のカンボジア医療従事者らとの地域保健医療プログラムの実施は、学生の国際的な視野を広めるためにも有意義である。
- ◎ 教員には、常に研究と修養に努め、専門性の向上を図ることが求められる。個々の教員の研究力、教育力を向上させることが学生の進路や教育の質向上につながる。
- ◎ 大学院博士課程が開設され、定員を確保することができた。大学院進学者は、内部進学者、外部進学者、社会人、留学生とバランスも良い。グローバル文化学専攻の内部進学者の確保が課題である。
- ◎ 就職内定率が3年連続で100%を達成したことは、大いに評価できる。卒業者が地元企業等のニーズや期待に応えられているかどうかを把握し検討していくことも重要である。

令和6年4月大学院サステナブルシステム科学研究科博士後期課程開設

大学が有する工・文・医系の全アクティビティを結集、連携させ、持続可能な目標達成に向けての課題の相互関連性の認識と統合的な解決への意識を共有し、専攻の垣根を超えた連帯と協働で教育研究を行う。

数値指標の達成状況

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考
志願倍率	志願者数 ／募集定員	最終年度	2倍 以上	2倍 以上	4.66倍	令和5年 4.66（一般5.5、推薦2.3） 令和6年 4.92（一般5.8、推薦2.2）
学生の満足度	5段階評価 （平均値）	毎年度	3.3	3.3	4.25	前期 4.25 後期 4.24
外国語能力 検定試験結果	国際文化交流学部 TOEICスコア （4年生平均）	毎年度	600点	600点	576点	
標準修業年限での 卒業者の比率	4年間で卒業した人数 ／当該年度入学人数	毎年度 （完成年度以降）	80%	80%	88.8%	
就職希望者の 就職率	就職者数 ／就職希望者数	毎年度 （完成年度以降）	90%以上	90%以上	99.0%	2024年3月末時点の就職内定率 100%
国家試験 合格率	看護師の合格率	毎年度 （完成年度以降）	95%以上	95%以上	100%	全国合格率 87.8%
	保健師の合格率	毎年度 （完成年度以降）	95%以上	95%以上	100%	全国合格率 95.7%
	臨床工学技士の 合格率	毎年度 （完成年度以降）	95%以上	95%以上	89.6%	全国合格率 79.5%
市民公開講座 開講数	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10 / 年	10 / 年	12	市民大学 6 市民公開フォーラム 1 次世代考古学セミナー 3 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1
	教員参画数 ／年	完成年度以降	20人 / 年	20人 / 年	21人	市民大学 17 市民公開フォーラム 3 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 0
市民による 施設利用度	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	205件	中央 28件（こまつ市民大学利用ほか） 粟津 177件（運動場利用ほか） 末広 0件
インターンシップ 参加者数	参加者数／年	毎年度 （3年目以降）	200人	200人	延べ196人	「学外技術体験実習」（生産） 81人 「インターンシップ」（国際） 51人 その他（授業外） 64人

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 「公立小松大学重点研究『つよみ』」制度を実施し、学内の分野横断型の独創的研究1件に対し助成を行った。
- 各学科の特色ある個別研究に対し、研究助成金「研究発展・向上費」を交付した。
- 研究シーズ集・研究者要覧及び広報誌「Tachyon Academia」を発行し、各種研究イベントや協力企業等に発信した。
- 次世代考古学研究センターを創設し、必要人員を配置するとともに、マヤ文明世界遺産と小松の石文化をテーマとした市民公開フォーラムを開催し、研究成果を発信した。
- 企業等からの委託により、学術上の課題解決について大学研究者が助言等を行う「技術コンサルティング制度」を創設した。
- 専任教員の研究実績は、学会報告件数、学術論文数、外国語論文数、著書発表数、共同研究・受託研究数、科学研究費補助金採択件数、その他外部資金採択件数のいずれも目標値を上回った。
- 科学研究費補助金の申請や不正防止及び利益相反への対処等について、教職員FD・SD研修を実施するとともにeラーニングの受講や外部主催研修会への参加を促した。

評価委員会による評価

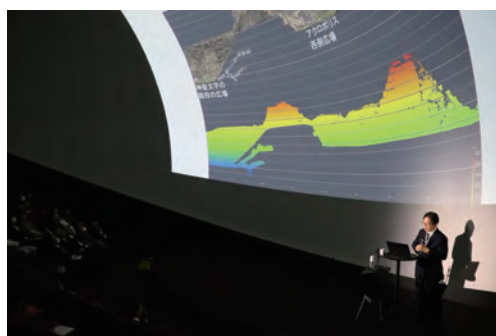
年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎「公立小松大学重点研究『つよみ』」制度を活かして、大きな研究成果に発展するよう期待する。
- ◎外部資金獲得の重要性を認識し、全学を挙げて取り組んでいただきたい。大学の目玉となる民間機関等との大型の共同研究などが生まれると良い。
- ◎専任教員の論文・著書数は、目標値を上回っており、今後はよりランクの高い雑誌への掲載も目指していただきたい。過去5年の論文数が極めて少ない教員については、一般研究費の執行を制限するなどの対応も考えられる。
- ◎次世代考古学研究センターの創設により、マヤ考古学調査研究を通して学んだことを地域に活かしていただきたい。
- ◎技術コンサルティング制度は、地域の課題解決への貢献が期待されるだけでなく、共同研究や受託研究のきっかけにもなる。気軽に申し込みができる環境を一層整えていただきたい。

市民公開フォーラム「次世代考古学が拓く未来」(10/29)

サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオにて開催。マヤ文明世界遺産における国際貢献と小松の石文化を用いた地域貢献について、令和5年4月に設置した次世代考古学研究センターの取り組み、研究などを市民に広く紹介した。



数値指標の達成状況

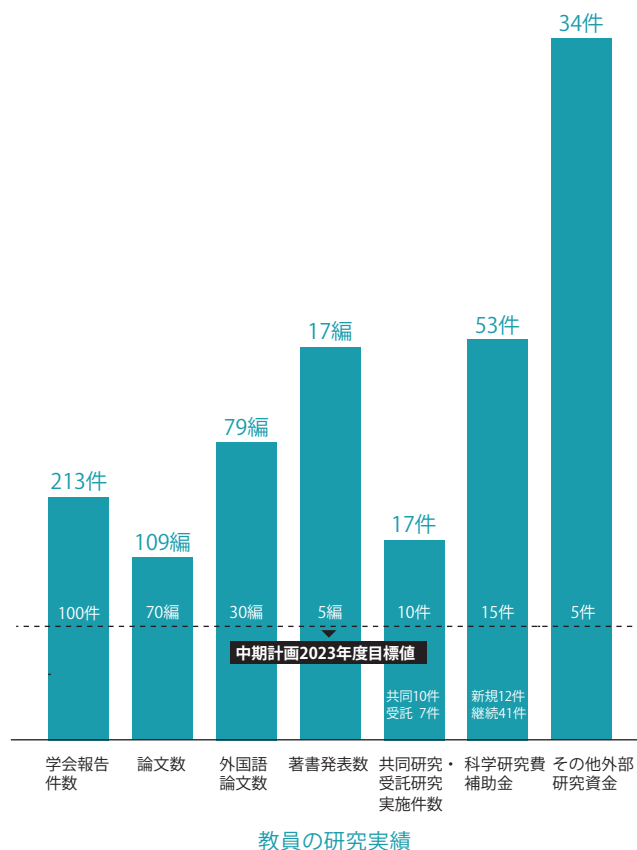
項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考
学会報告件数	報告件数／年	完成年度以降	100件	100件	213件	国内学会 177件 国際学会 36件
論文・著書数	論文数／年	完成年度以降	70編	70編	109編	日本語 30編 英語・ その他外国語 79編
	英語・その他の外国語論文数／年	完成年度以降	30編	30編	79編	
	著書発表数／年	完成年度以降	5編	5編	17編	
共同研究・受託研究数	実施件数／年	完成年度以降	10件	10件	17件	共同研究 10件 受託研究 7件
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	53件	新規 12件 継続 41件
	その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	34件	助成金 26件 奨学寄附 3件 応募型受託研究 5件



各種展示会イベントへの出展

（上：5/26・27 e-messe kanazawa、下：5/18～5/20 MEX金沢）

地域ニーズとのマッチングや地域課題解決、共同研究などのきっかけとなることを目指し、各種展示会への出展を通して教員の研究紹介を実施。大学のPRにもつなげている。



評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- グアテマラ共和国のデル・バジェ大学と大学間交流協定を締結し、国際機関等との協定締結は19件となった。
(大学間: 11件、部局間: 5件、その他機関: 3件)
- 長期・短期交換留学実績として、海外協定校へ学生40名(オンライン3名)を派遣し、留学生12名の受け入れ支援を行った。
- アンコール遺跡整備公団への海外インターンシップや中島記念国際交流財団の助成金を活用した異文化交流事業の実施を通じて国際理解を深めた。
- 外務省主催「カケハシ・プロジェクト」の採択をうけ、臨床工学科及び国際文化交流学科の学生がカナダを訪問し、対日理解促進プログラムを実施した。
- 3年連続でJICA青年研修事業の採択を受け、保健医療学部とカンボジアの医療従事者らとの地域保健医療プログラムを約1か月間の日程で実施し、学術交流を深めた。
- 小松市国際交流協会との共催で英会話カフェを開催するとともに、中国語圏留学生らが中国語カフェを開催し、地域の異文化交流を深めた。
- 国際交流センター公認サークルKOMA-Friendを新設し、学生メンバー50名が留学生や交流事業を支援した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 海外の大学等との交流協定の締結数は着実に増えている。今後、締結大学等との一層活発な交流を期待する。
- ◎ 海外大学等との交流協定について、観光、技術など各分野に応じた国があるとよい。大学が得るだけでなく、相手国へ貢献することも大切であり、バランスよく交流してほしい。
- ◎ 留学生の受入・派遣人数は、コロナ禍の影響を受けながらも、目標値を達成できている。今後一層の増加を期待する。
- ◎ 国際文化交流学部を有していることを踏まえ、さらなる国際交流の活発化、海外研修の促進が必要と思われる。国際文化交流学部のTOEICスコアは、目標の600点クリアを目指して頑張してほしい。
- ◎ 海外研修・留学等について、円安の影響を大きく受けているが、各種補助金などにより対処できた。

JICA青年研修「地域保健医療」プログラム (12/1～12/26)

保健医療学部の教員が一般財団法人日本国際協力センター(JICE)中部支所と協力し、独立行政法人国際協力機構(JICA)の令和5年度青年研修「保健医療(地域保健)B」を実施。



数値指標の達成状況

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R5 目標値	実績	備考
留学生受入・派遣数	受入人数／年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人以上	18人	短期 5人 長期 7人 大学院留学生 6人
	派遣人数／年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	40人以上	40人	短期 30人(オンライン留学3人) 長期 10人
海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	10件	19件	大学間 11件 部局間 5件 その他 3件
国際シンポジウム・セミナー等 発表・開催数	発表者数／年	完成年度以降	15人	15人	37人	国際学会 36人 招待講演 1人
	開催件数(累計)	最終年度	15件	15件	14件	

国・地域別海外連携機関

[中国] * 常州大学 * 東南大学 外国語学院・海外教育学院 [台湾] * 建国科技大学 * 国立中央大学 英米語文学科・言語センター * 国立中山大学 工学部 [タイ] * プリンズ・オブ・ソンクラ大学 * ランシット大学 * モンクット王立工科大学 トンブリー校 産業教育技術学部 * 泰日工業大学 * ナレスワン大学 社会科学部 [カンボジア] * 国立アンコール遺跡整備公団 [マレーシア] * トUNK・アブドゥル・ラーマン大学	[韓国] * 湖西大校 [アメリカ合衆国] * オースティン・ピー州立大学 シリコンバレーオフィス ティカルリエゾンオフィス コパンリエゾンオフィス [グアテマラ共和国] * グアテマラ共和国文化スポーツ省 文化自然遺産副省 * デル・バジェ大学 [ホンジュラス共和国] * ホンジュラス国立文化人類学歴史学研究所	[インドネシア] * ハサヌディン大学 [ニュージーランド] * オークランド大学 English Language Academy
---	--	--

外務省主催 対日理解促進プログラム

「カケハシ・プロジェクト」(3/3～3/11)

臨床工学科及び国際文化交流学科 6 名がカナダを訪問し、外務省等へ表敬訪問を行うとともに、ウォータールー大学にて日本文化を発信するプレゼンテーションを行った。



トUNK・アブドゥル・ラーマン大学 スタディツアー受け入れ (10/15～10/24)

マレーシアのトUNK・アブドゥル・ラーマン大学から学生 5 名、職員 1 名の受け入れを行い、国際交流センタースタディツアーを企画、実施した。



評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 公立小松大学シリコンバレーオフィスを拠点とした現地研修は、小松市の参加と助成を得て「産官学合同シリコンバレー研修」へ規模を拡大して実施した。小松市長及び学長が研修に同行し、産官学の連携推進を図った。
- シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2023を開催し、特別講演会や企業紹介、交流会等を通して、協力企業等と学生及び教職員が情報交換を行った。
- 第6回大学祭「青松祭」では、実行委員会が中心となり、模擬店、学科紹介・進学相談、ステージ発表など多様な企画を実施した。
- こまつ市民大学では、中央キャンパスを会場に、教員が健康・医療、文化、国際情勢など研究分野に沿った講座を多数開催した。
- MEX金沢2023、e-messe kanazawa 2023、北陸技術交流テクノフェア、T-Messe2023、Matching HUB Hokuriku 2023などの産官学連携イベントに出展し、大学の研究活動や地域連携事業の発表を行った。
- サイエンスヒルズこまつが主催する小・中学生向けの各種イベントにおいて、教員が講師を務め、学びや発見の楽しさを伝えた。同会場の常設展示ブースでは大学の紹介及び最新の研究を発信した。

評価委員会による評価

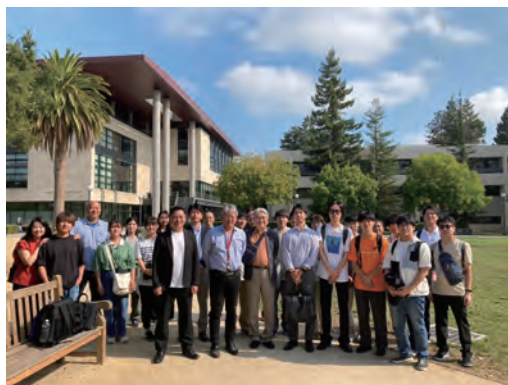
年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 世界のITをリードする米国シリコンバレーでの産官学合同研修は、それぞれの立場からの相乗的効果が期待でき、今後も継続していただきたい。
- ◎ シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2023は、学生や教職員が企業等との交流を行い、理解を深める貴重な機会となっている。
- ◎ 大学祭や地域行事がコロナ前から通常に戻り開催することができ、市民と大学の交流を深めることができている。
- ◎ 教育、研究、国際交流など幅広い分野において、小松市をはじめとする地域社会との連携が重要である。課外活動においても、学生の自主的活動が、展開されるよう指導・支援が望まれる。

産官学合同シリコンバレー研修 (8/20～8/25)

公立小松大学シリコンバレーオフィス(アメリカ カリフォルニア州)に学生と地域の企業人、小松市職員を派遣し、現地での特別講義、視察、グループワーク等を通じて現地の最新動向に触れつつ、グループワークやフィールドリサーチを通じた課題解決型学習に取り組んだ。



数値指標の達成状況

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R5 目標値	実績	備考
市民公開講座 開講数（再掲）	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10／年	10／年	12	市民大学 6 市民公開フォーラム 1 次世代考古学セミナー 3 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1
	教員参画数 ／年	完成年度以降	20人／年	20人／年	21人	市民大学 17 市民公開フォーラム 3 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 0
市民による 施設利用度（再掲）	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	205件	中央 28件（こまつ市民大学利用ほか） 栗津 177件（運動場利用ほか） 末広 0件
連携施設・ 店舗等の数	累計数	最終年度	50件	50件	419件	協力企業等 392団体 ランチ助成券 27店舗
学生の地域行事等 ボランティア件数・ 人数	件数／年	完成年度以降	20件	20件	48件	どんどんまつり 1回 ボランティアサークル 47回
	参加人数／年	完成年度以降	100人	100人	231人	どんどんまつり 18人 ボランティアサークル 213人



どんどんまつり あんどん行列（10/7）

国際交流センター公認サークルであるKOMA Friendが中心となり、留学生を含む学生、教職員26名でどんどんまつりのあんどん行列に参加。学生たちは大学オリジナルのはっぴ姿で、様々な言語で交流を楽しみながら、力を合わせてあんどんを曳き、芦城公園からJR小松駅前まで練り歩いた。

第6回 青松祭（10/21）

学部や学科、年齢の境界を飛び越えて、みんながハジけ、楽しめるような大学祭に、という願いを込め「Break the Limit〜ハジける! みらいへ!〜」をテーマに開催。学生、教職員だけでなく、地域の方々や高校生など多くの方々が来場した。



評価 A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 自己点検評価・内部質保証推進会議及び評価室ヒアリングを実施し、組織的に教育の質の保証と水準の向上に取り組んだ。
- 第2期中期目標・計画策定にあたり、法人評価・認証評価など多様なステークホルダーから聴取した意見及び要望を取り入れた。
- 大学院サステナブルシステム科学研究科博士後期課程の開設に向け、末広キャンパス研究実験棟の教育研究環境の整備を行った。
- 教職員の資質向上を目指し、教職員FD・SD研修を年3回実施したほか、公立大学協会や大学コンソーシアム石川など外部が主催する研修会への教職員の参加を促進した。
- 空調や照明の集中管理や電力デマンド監視装置による電力の抑制、年間業務委託の複数年化、給与明細閲覧機能のシステム導入等によりコスト軽減を図った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 内部質保証と教育の水準向上のための様々な取り組みは評価できる。一方で、点検・評価やデータ分析などが、教職員にとって過度な負担にならないような配慮も求められる。
- ◎ 大学院博士後期課程のカリキュラム・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーを実現するために、教育研究環境の一層の充実を期待する。

FD・SD研修会

第1回は「利益相反を含む研究不正防止」、第2回は「教職員向け危機管理セミナー」、第3回は「危機状態の可能性のある学生への対応」として、多様なテーマで年3回の研修会を開催した。



数値指標の達成状況

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考
業務改善実施件数	件数（累計）	最終年度	40件	40件	45件	
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数／年	毎年度	1件以上	1件以上	3件	主催 3件

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 志願者確保に向けて、北陸三県・東海・信越地方など延べ94校に対して、大学説明会や高校訪問等を実施したほか、入学者選抜要項や大学案内の送付、オープンキャンパスの開催、大学Webサイト等を通じ入試広報を展開した。
- 公立小松大学基金への寄附の案内パンフレットの送付や、大学Webサイトにおける基金の活用事例の紹介により、企業、団体、個人等からの寄附の受け入れを促進した。年間寄附件数は計25件となり、修学支援や教育研究活動に充当した。
- 科学研究費及びその他外部資金獲得の実績は、科学研究費採択数53件、その他外部資金獲得数34件となり、目標値を上回った。

オープンキャンパス2023（7/15）

粟津、末広、中央の3キャンパスで実施し、合計396名が参加した。
（臨床工学科での腹腔鏡操作体験）



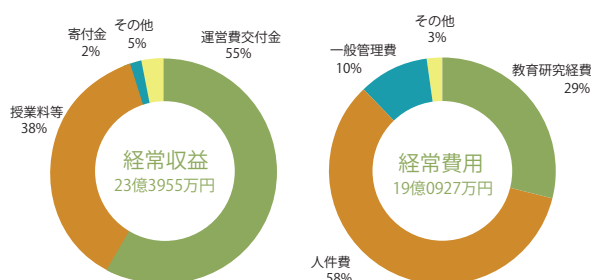
評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 志願者確保に向けた様々な取り組みの成果が現れている。今後、大学Webサイト等を一層充実させるなど、効率的な入試広報を展開していただきたい。
- ◎ 科学研究費採択数、その他外部資金獲得数が、いずれも目標値を上回ったことは、教員の研究内容とともに研修等の取り組みの成果であり、評価できる。
- ◎ 能登半島地震被災学生のための基金寄附が集まったことは、大学に対する理解、認知度が高まっているという証拠である。

法人の経営状況



数値指標の達成状況

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考
自己収入額	自己収入額／年	毎年度 (完成年度以降)	7億円以上	7億円以上	8.2億円	
科学研究費 補助金等獲得 状況（再掲）	科学研究費 補助金 採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	53件	新規 12件 継続 41件
	その他外部 研究資金 採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	34件	助成金 26件 奨学寄附 3件 応募型 受託研究 5件

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- (一財)大学教育質保証・評価センターが実施する、大学初となる大学機関別認証評価を受審し、「適合」の評価を受けた。それを契機として、内部質保証に係る体制及び方針を策定した。
- 大学機関別認証評価において指摘があった、学部及び大学院のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシーの見直し他について適切に対応し、受審結果は大学Webサイトで社会に公表した。
- 自己点検評価・内部質保証推進会議を年3回開催し、大学全体の業務実績・進捗状況の確認を行うとともに、各部局への改善指示を行った。また、評価室ヒアリングを年2回開催し、各部局の年間の業務の方針、予定、進捗管理を行った。
- 大学Webサイトの運用、広報誌「Tachyon」、大学案内の発行、ラジオ番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」など様々な媒体での広報活動を展開した。広報室学生委員が専用Instagramでキャンパスライフを写真や動画で紹介するなど、学生目線の情報公開を強化した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 内部質保証に係る体制及び方針を定め、組織的に教育の質向上に取り組んだ。これらの取り組みを今後に活かしていきたい。
- ◎ 大学機関別認証評価において指摘があった事項について対応した結果を大学Webサイトで社会に公表したことは適切である。

広報室学生委員 カメラ研修

広報室学生委員の撮影技術の向上を図ることを目的に、小松市内の観光地にて実践的なカメラ研修を実施。撮影した写真をInstagramに投稿することで、小松市の魅力発信にもつなげた。



大学広報誌「Tachyon」(Vol.11、Vol.12)

9月と3月の年2回発行。学生の課外活動や大学内の注目すべきトピックスや教員紹介などを取り上げ、情報発信を行った。



大学機関別認証評価 認定証

令和5年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターが実施する大学機関別認証評価を受審。本学にとっては初の受審となり、令和6年3月15日付で「一般財団法人大学教育質保証・評価センターが実施した大学機関別認証評価において大学評価基準を満たしている」との認定を受けた。

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 定期健康診断やストレスチェックなど職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。定期的に職場巡視を行い、5S(整理、整頓、清潔、清掃、習慣)活動の浸透を図った。
- 防災マニュアルに基づき各キャンパスや学生寮での防災訓練を年2回実施した。
- 海外渡航時の危機管理マニュアルを整備したほか、実践型の模擬訓練を実施し、事故発生時の対応や家族への電話連絡、記者会見等を行い、危機管理体制を強化した。
- 緊急通報・安否確認システム「Safetylink24」について、オリエンテーション等を通じてアプリの登録及び回答を呼びかけた。令和6年能登半島地震では本アプリを用いて学生及び教職員の安否確認を行った。
- 令和4年度の決算・業務について監事監査を実施するとともに、令和4年度の業務・会計処理についてキャリアサポートセンター及び総務課に対し内部監査を実施した。また文部科学省の定めるガイドラインに基づき、公的研究費の通常監査及び旅費に特化したリスクアプローチ監査を実施し、いずれも適正に実施していることを確認した。

自衛消防訓練・防災訓練

防災マニュアルに基づき、粟津、末広、中央の各キャンパスで自衛消防訓練・防災訓練を実施。粟津キャンパスでは、学生や留学生が入居する学生寮での防災訓練も併せて実施した。



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 定期健康診断やストレスチェックについては、受診率の向上や検診結果に基づくフィードバックなど、効果的な取り組みに期待したい。
- ◎ 各種防災マニュアルの整備や安全衛生管理が行われている。防災など安全対策に対しては組織的にさらに入念な体制づくりをしていただきたい。
- ◎ 国際情勢が不安定さを増している中、実践型の危機管理模擬訓練を実施したことは有意義である。
- ◎ 緊急通報・安否確認システムは、学生ならびに教職員の早急な安否確認に不可欠である。令和6年能登半島地震における活用の検証も重要である。
- ◎ 大学院博士課程の設置認可や大学機関別認証評価などは大きな活動成果である。今後のさらなる内容充実、発展が期待される。

危機管理訓練(12/26)

第3回FD・SD研修の一環として、教職員向けの海外渡航時の危機管理訓練を実施。実践形式では初めての開催となった。



基本理念・教育理念

公立小松大学は、これまで地域で培われてきた教育資源である小松短期大学及びこまつ看護学校の施設設備や高い教育実績を礎に、これらを再編・発展させ、南加賀唯一の4年制高等教育機関として平成30年4月に開学した。

地域における教育、研究の中核的拠点として、以下の **基本理念** を掲げている。

- 地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成する大学
- 持続的発展に向けて生産システムや人間の健康医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する大学
- 地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学

また、基本理念に基づき、以下の **教育理念** を掲げている。

- 確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた主体的な学びと組織的な教育
- 人間・社会・自然と科学技術の発展を総合的に捉える先駆的な科学教育
- 人間性豊かな市民、応用力のある専門職業人、グローバル人材を育成する地域と協働した教育

大学の学部・学科構成

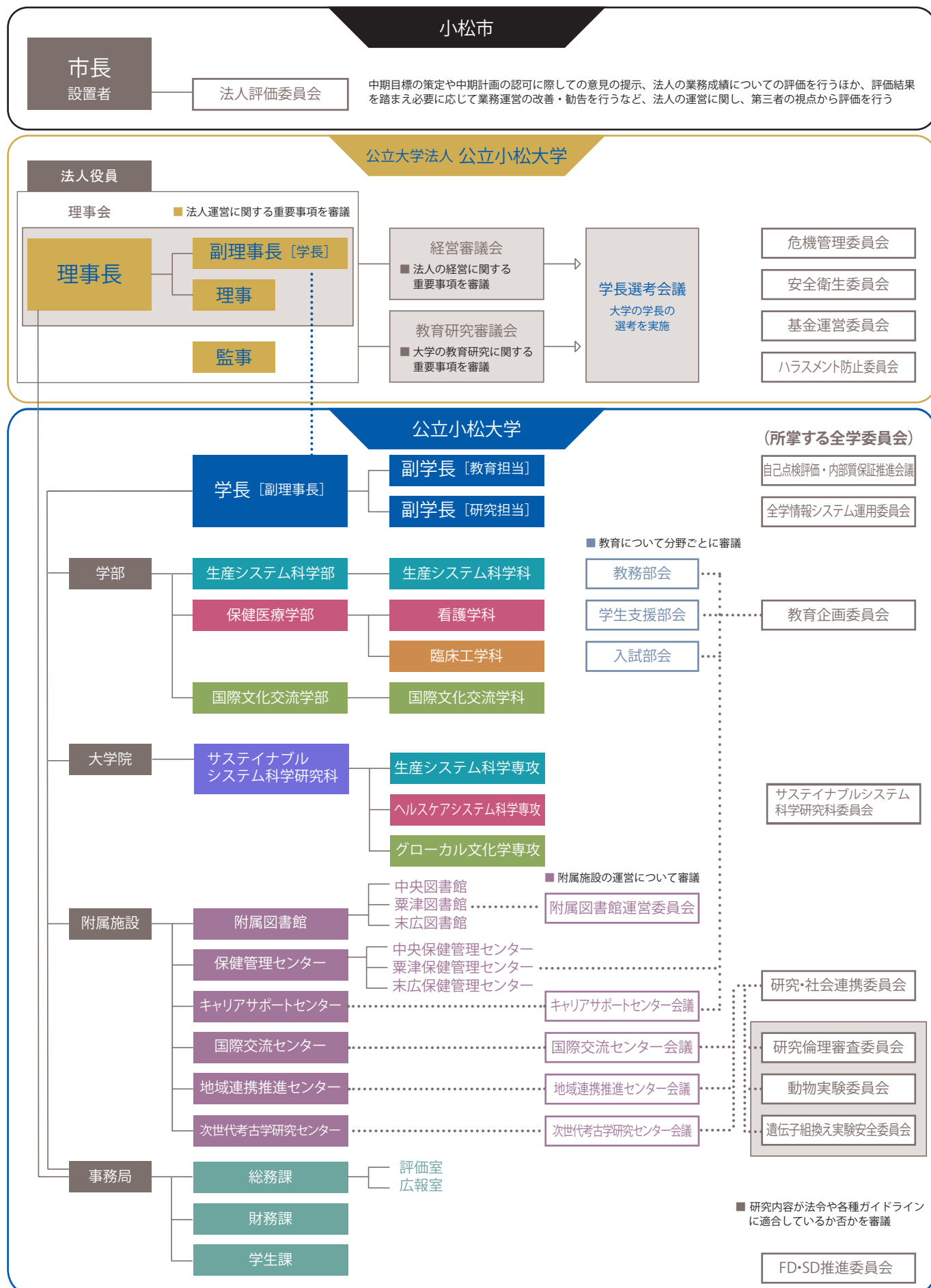
[単位:人]

学部	学科	入学定員	収容定員	現員 令和5年5月1日現在		
				男	女	計
生産システム学部	生産システム科学科	80	320	307	29	336
保健医療学部	看護学科	50	200	18	188	206
	臨床工学科	30	120	51	76	127
国際文化交流学部	国際文化交流学科	80	320	59	270	329
合計		240	960	445	563	998

大学院の研究科・専攻構成

[単位:人]

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現員 令和5年5月1日現在		
				男	女	計
サステイナブルシステム科学研究科	生産システム科学専攻	15	30	24	2	26
	ヘルスケアシステム科学専攻	3	6	6	1	7
	グローバル文化学専攻	3	6	2	3	5
合計		21	42	32	6	38



(2)

評価

評価の基本方針

年度評価は、公立大学法人公立小松大学（以下「法人」という）の中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行う。なお、評価の際は、法人の教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成に向けた取り組み状況を市民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

評価項目

項目別評価	小項目別評価	年度計画の最小項目として記載されている各事項の達成状況。評価基準に沿って評価を行う
	指標単位評価	年度計画の各数値目標の達成状況。評価基準に沿って評価を行う
	大項目別評価	小項目別評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における大項目ごとの進捗状況 大項目ごとに評価基準に沿って、中期計画の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う
全体評価		項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況。大項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う

小項目別評価 統括表

大項目		事業 項目数	5 年度計画を 大幅に 上回る	4 年度計画を 上回る	3 年度計画を 概ね実施	2 年度計画を 十分に 実施せず	1 年度計画を 大幅に 下回る	設定 平均値
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育に関する目標を達成するための措置	47	3 (6.4%)	35 (74.5%)	9 (19.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	10 (100.0%)	0 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③国際交流に関する目標を達成するための措置	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.4
III	地域貢献に関する 目標を達成するための措置	12	1 (8.3%)	9 (75.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
IV	業務運営の改善及び効率化に関する 目標を達成するための措置	14	2 (14.3%)	9 (64.3%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
V	財務内容の改善に関する 目標を達成するための措置	11	0 (0.0%)	7 (63.6%)	4 (36.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
VI	自己点検・評価及び情報の提供に関する 目標を達成するための措置	7	1 (14.3%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
VII	その他業務運営に関する 目標を達成するための措置	20	0 (0.0%)	11 (55.0%)	9 (45.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
※ XII	余剰金の使途	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.0
※ XIII	その他設立団体の規則で定める 業務運営に関する事項	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
合計		128	9 (7.0%)	90 (70.3%)	29 (22.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8

※中期計画に大項目として記載しているXII、XIIIに係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。

評価基準				
評価区分		設定	評価基準	評価の目安
項目別評価	小項目別評価	5	年度計画を大幅に上回る	特に優れる若しくは顕著な成果がある
		4	年度計画を上回る	上回る若しくは十分な実施状況
		3	年度計画を概ね実施	実施している
		2	年度計画を十分に実施せず	下回る若しくは実施が不十分
		1	年度計画を大幅に下回る	特に劣る若しくは実施していない
	指標単位評価	S	年度計画を大幅に上回る	達成率100%以上かつ顕著な成果がある
		a	年度計画を上回る	達成率100%以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率80%以上 100%未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率60%以上 80%未満
		d	年度計画を大幅に下回る	達成率60%未満
	大項目別評価	S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	小項目別評価の平均値が4.3以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組があると評価委員会が認める場合
		A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに評価委員会が「A」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合
		B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、さらに評価委員会が「B」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合
		C	中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、さらに評価委員会が「C」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合
		D	中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	小項目別評価の平均値が1.8以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると評価委員会が認める場合
全体評価	S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	
	A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる		
	B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる		
	C	中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する		
	D	中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である		

地方独立行政法人	住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施される必要のある事務・事業のうち、地方公共団体自身が直接実施する必要はないものの、民間の主体に委ねては確実な実施が確保できないおそれがあるものを効率的・効果的に行わせるため、地方公共団体が設立する法人。
公立大学法人	地方独立行政法人のうち、大学の設置及び管理を行うもの。公立小松大学の設置・管理は、「公立大学法人公立小松大学」が行っている。
評価委員会	地方独立行政法人法第11条の規定により小松市長の附属機関として設置され、中期目標の策定や中期計画の認可に際しての意見の提示、法人の業務成績についての評価を行うほか、評価結果を踏まえ必要に応じて業務運営の改善・勧告を行うなど、法人の運営に関し、第三者の視点から評価する。評価委員会の組織及び委員等必要な事項は、小松市公立大学法人評価委員会条例で定めている。
中期目標	法人が、6年間に於いて達成すべき目標で、市長が定め、公立大学法人に指示するもの。
中期計画	中期目標に基づき、当該中期目標を達成するために公立大学法人が作成するもの。
年度計画	中期計画を着実に実行していくために法人が年度ごとに作成するもの。
グローバル	「グローバル (Global) : 世界」と「ローカル (Local) : 地域」を掛け合わせた造語。グローバル人材は、国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験を有し、地域の活性化や持続的発展に貢献できる人材を指す。
キャリアデザイン	自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすること。自分の経験やスキル、ありたい将来像についてを考慮しながら、自らの持つ能力を活かすための仕事、職務の形成を進める。
共同研究	外部機関から研究経費等を受け入れ、大学の教員等が外部機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究や、大学・外部機関において共通の課題について分担して行う研究。
受託研究	大学が外部からの委託を受けて職務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するもの。
科学研究費補助金	文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会の事業。 すべての分野、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。
ファカルティ・ディベロップメント (FD)	教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。
スタッフ・ディベロップメント (SD)	職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。「職員」には、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。
FD・SD活動	ファカルティ・ディベロップメント (FD) やスタッフ・ディベロップメント (SD) のための大学としての活動。
自己収入額	経常収益のうち、「授業料」「入学金」「検定料」等の合計。

Campus Map



中央キャンパス

[全学部・国際文化交流学部]

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10
アクセス▶小松駅から徒歩約1分

※小松駅前の複合施設「こまつアズスクエア」2・3階



末広キャンパス

[保健医療学部]

〒923-0961 石川県小松市向本折町へ14番地1
アクセス▶小松駅から路線バスで
「市民病院」下車(所要時間約7分) 徒歩約3分、
小松駅から徒歩約23分

※南加賀地域の広域医療の拠点である小松市民病院に隣接



粟津キャンパス

[生産システム科学部]

〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
アクセス▶粟津駅から徒歩約12分

※南加賀地域のものづくり集積地の中心に位置

Evaluation Report of Komatsu University's Activities and Administration

問合せ

小松市役所 総合政策部 総合政策課

〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地

TEL 0761-24-8037 E-mail : kikaku@city.komatsu.lg.jp

公立大学法人 公立小松大学 事務局総務課

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10

TEL 0761-23-6600 E-mail : soumu@komatsu-u.ac.jp